

第2期小豆島町の総合戦略 基本施策の取組内容

日 時：令和2年3月30日（月）午後6時30分～

場 所：小豆島町役場本館3F 大会議室

基本施策 1. 健康づくり

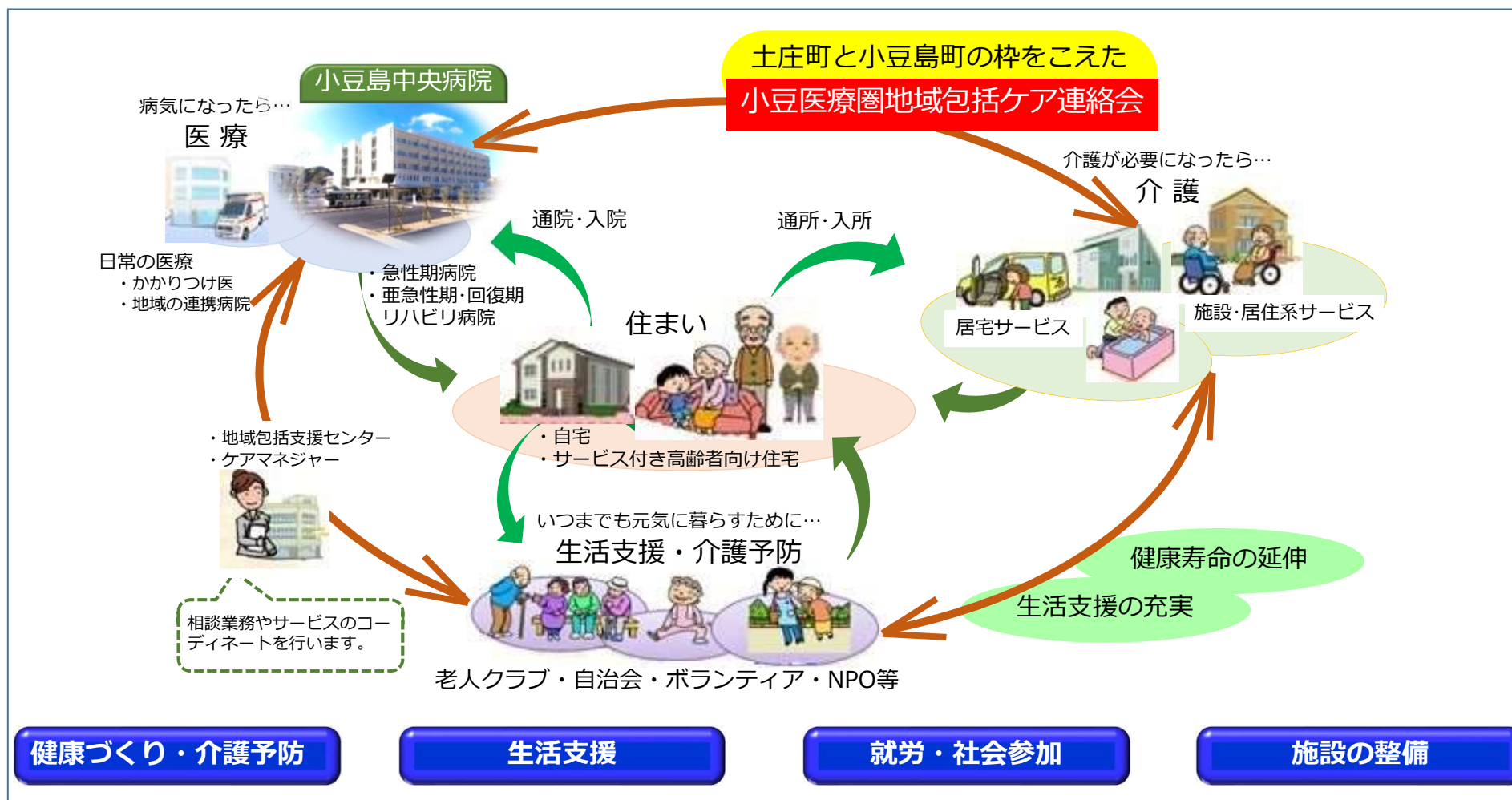
①小豆島中央病院を核とした地域包括ケアシステム【小豆島モデル】の実現に向けて

小豆島中央病院を核として、小豆島全体で、多職種と島民が一緒になって

○ できる限り健康寿命（健康な期間）を延ばし

○ できる限り住み慣れた自宅で暮らすことができるようにすることが重要

地域包括ケアシステム【小豆島モデル】の実現



基本施策 1. 健康づくり ②オリーブによる健康・長寿の島づくり

オリーブでもっと元気に 健康に



オリーブ普及推進の4本柱

- ① オリーブを用いた料理の家庭・学校給食での普及
- ② オリーブを用い、小豆島の食材を活かした新しい料理の開発
- ③ オリーブで生活習慣病を予防し、健康・長寿を実現
- ④ オリーブを用いた料理によるオリーブ観光の推進

目指す効果

オリーブからの4つの恵み

- ① 島民への健康・長寿、医療・介護の負担軽減
- ② 子どもたちへの未来の健康と無限の可能性
- ③ 島外の観光客への小豆島の魅力度アップ
- ④ 栽培農家などへの小豆島のオリーブブランドの向上



【重要業績評価指標 KPI】
オリーブを用いた各種教室・講座等の実施回数
令和元年度（2019） 31回
↓
令和6年度（2024） 35回

具体的な取り組み

① 家庭・学校給食での料理の普及

- ◆学校給食におけるオリーブの全面的な活用
- ◆家庭でのオリーブを活かした料理の普及徹底

② 小豆島の食材を活かした新たな料理開発

- ◆オリーブ料理フェスティバルの開催（小豆島中央高校）
- ◆オリーブを用いた家庭料理普及会の開催（食生活改善推進協議会）
- ◆オリーブを用いた新しい料理の提案募集（小豆島オリーブ公園）

③ 生活習慣病の予防による健康・長寿の実現

- ◆小中学校における食育教育の推進
- ◆保健師・栄養士による介護予防教室を通じたオリーブの普及
- ◆地域住民を対象としたオリーブに親しむ講演会の開催
- ◆小学生を対象としたオリーブの出前授業の実施
- ◆地域を対象としたオリーブの出前講座の実施
- ◆病院給食、介護保険施設給食でのオリーブオイルの使用

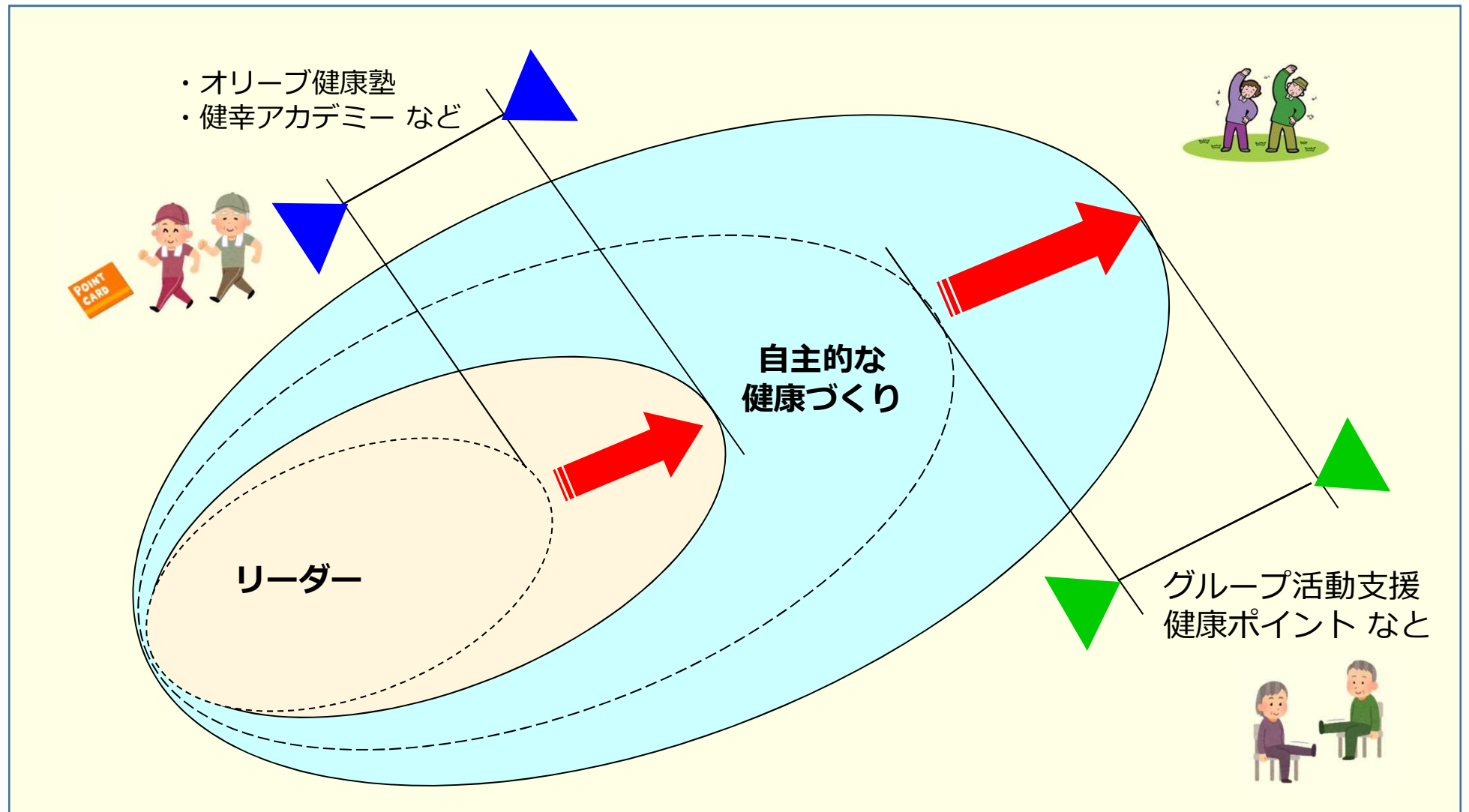
④ オリーブを用いた料理によるオリーブ観光の推進

- ◆オリーブ料理レシピ本の配布
- ◆オリーブ料理を提供する島内飲食店の紹介パンフレット配布

基本施策 1. 健康づくり ③健康づくりのリーダーの養成・自主的な健康づくりの推進

健康づくりのリーダーを養成し自主的な健康づくりを推進することにより健康寿命を延ばす

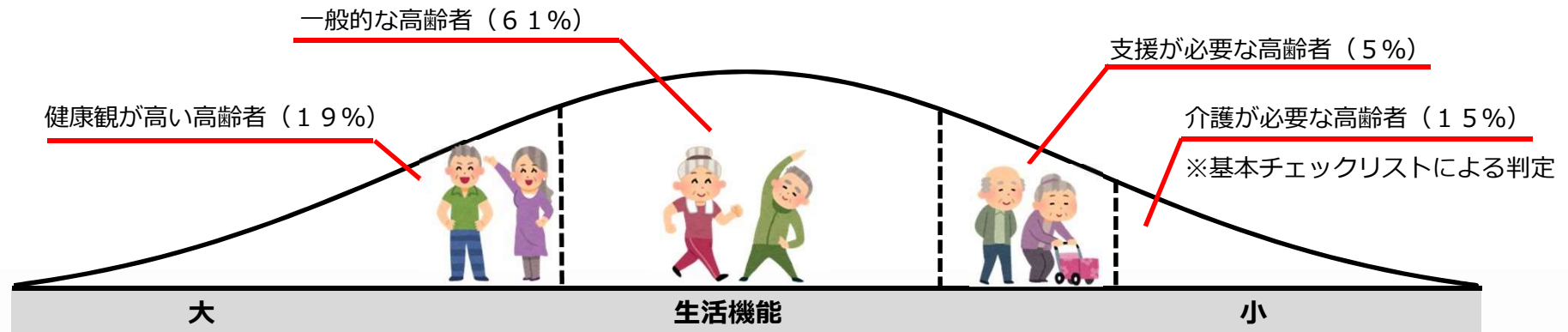
【重要業績評価指標 KPI】
健康ポイント参加者数とポイント数
令和元年度（2019） 210人・322ポイント
↓
令和6年度（2024） 250人・380ポイント



基本施策 1. 健康づくり ④生涯現役を目指し、高齢者が多様な分野で活躍できる社会づくり

さまざまな就労、社会参加の場を活かして、高齢者がいきいきと心豊かな生活を送れるよう支援します。

【重要業績評価指標 KPI】
サロン活動の取組推進
令和元年度（2019） 36箇所
↓
令和6年度（2024） 40箇所



ライフコースに応じた
就労・社会参加

就労

ボランティア・地域活動

趣味活動



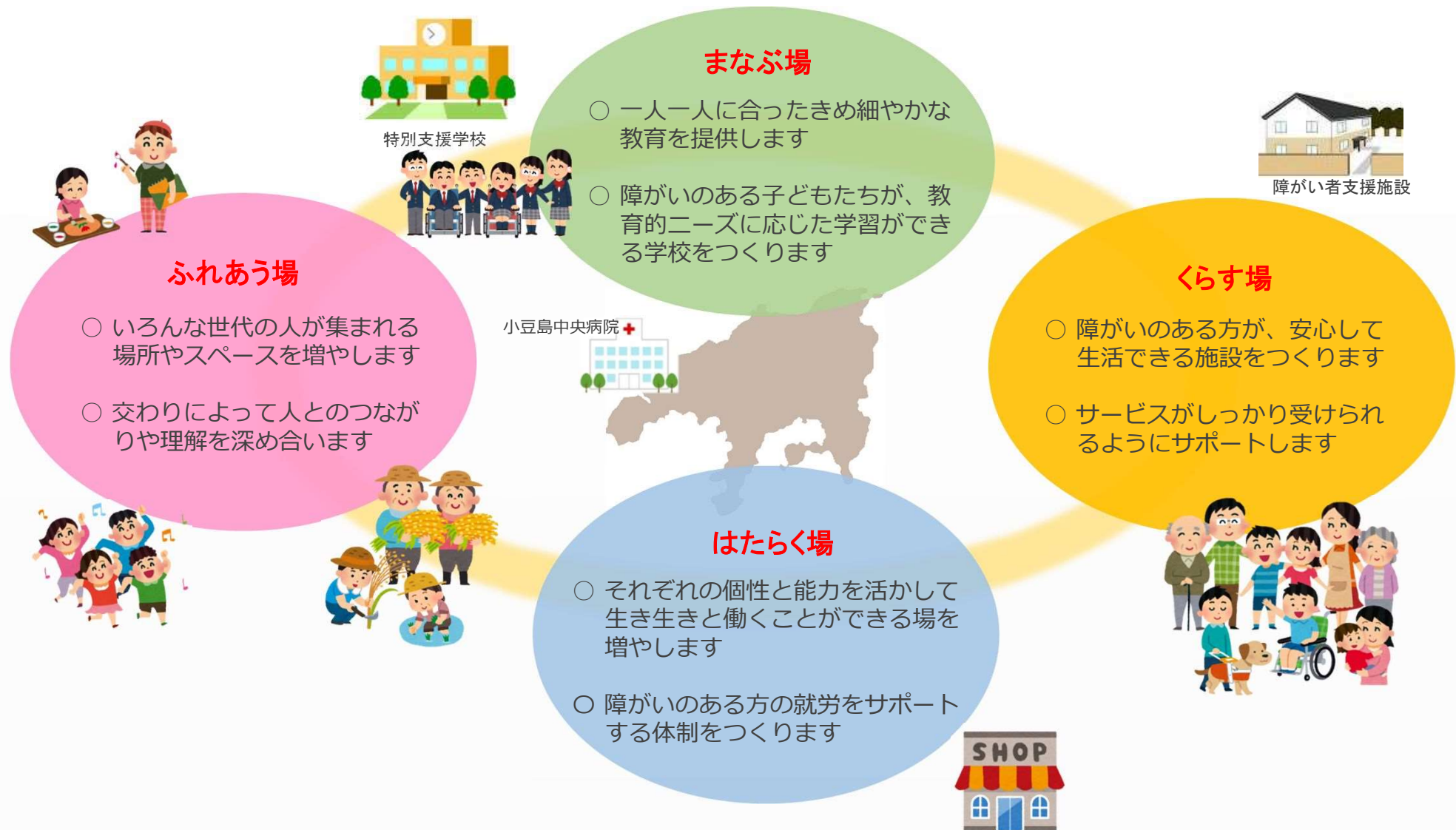
●高齢者の状態に応じた様々な就労・社会参加の取り組みの充実を図ります。

- ・ 培ってきた知識や経験を活かせる高齢者の活躍を推進
- ・ 介護予防ボランティア制度の実施
- ・ 老人クラブやサロン活動の支援
- ・ シルバー人材センターの活動支援

基本施策 2. 福祉の充実

①ぬくもりと希望の島づくり ～ 人と人がつながり、支え合い、だれもが安心していただける希望の島へ ～

障がいがあっても、できる限り住み慣れた地域で暮らすことができる社会を目指す



【重要業績評価指標 KPI】
サービス提供量の維持
令和6年度（2024）
令和元年度のサービス提供量を維持する

○多様な人財の確保・育成

小豆島中央病院を核として、医療福祉の情報発信、求人活動、移住支援、人財定着に係る施策を、小豆島が一体となった取り組みとして実施し、多様な人材の確保に努める。

・今、働いている人を支援すること

キャリアアップの支援として、小豆島中央病院スタッフ、障害・介護サービス従事者への研修受講費等の支援
国県の介護職員等の労働環境・処遇改善施策の周知啓発

・今、休んでいる人に働いてもらうこと

潜在看護師の活用を目指した小豆島ナースサポートセンターへの運営補助
香川県社会福祉協議会香川県福祉人材センターとの連携

・将来、小豆島で働く人を育てること

保健・医療・福祉関係職を志し、町内の病院や施設等で就業する意欲のある方に修学資金を貸与

・島外から小豆島で働ける人に来てもらうこと

小豆島中央病院と連携した、小豆島の地域医療を守り育てる島民運動の開催や情報発信
島外からの移住者に対して、賃貸物件の家賃敷金や購入物件の改修費を助成

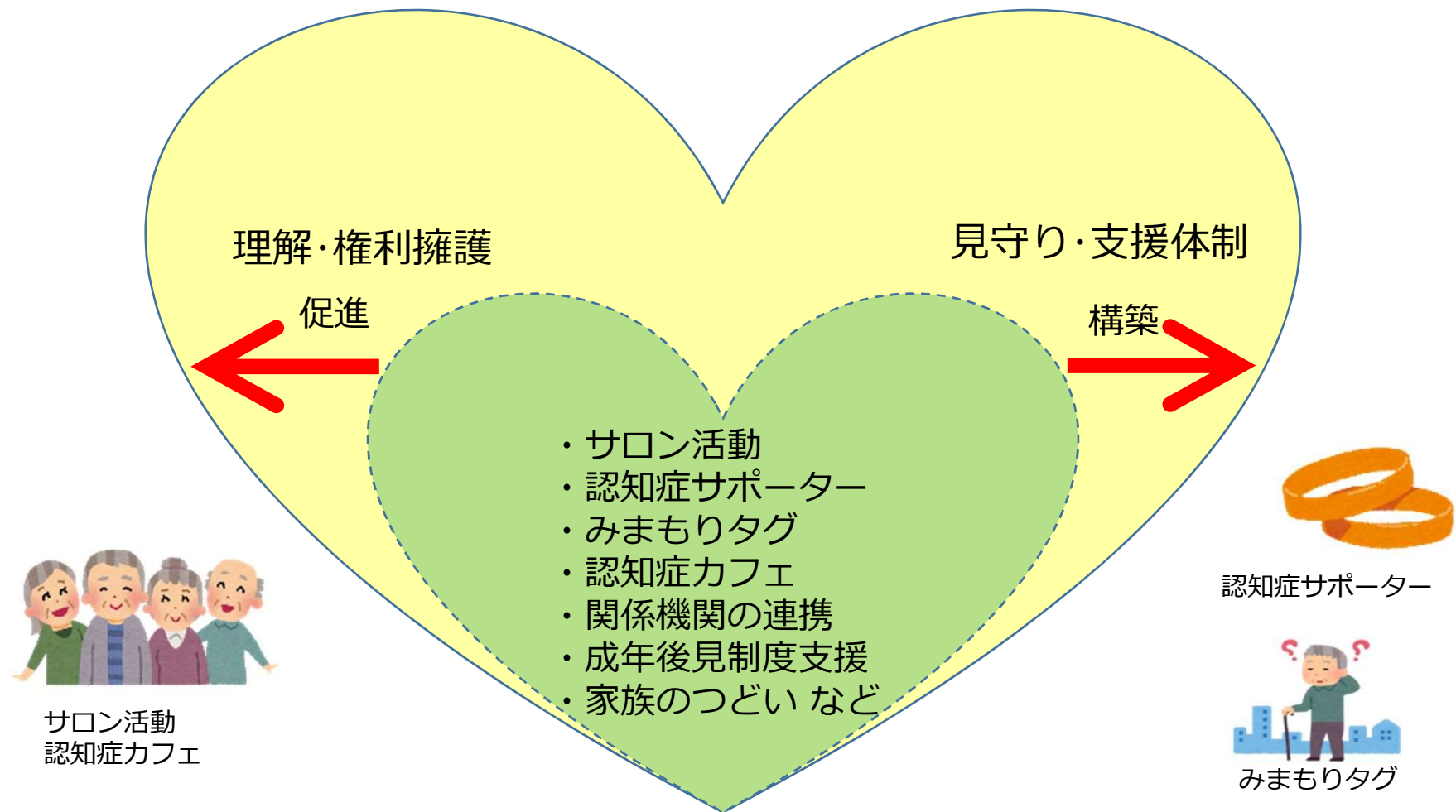


基本施策 2. 福祉の充実

③認知症があっても、できる限り住み慣れた地域で暮らすことができる社会の実現

認知症の理解の促進、地域の見守り・支援システム構築し、認知症があっても、できる限り住み慣れた地域で暮らすことができる社会を目指す

【重要業績評価指標 KPI】
認知症サポーター
令和元年度（2019）1,420人
↓
令和6年度（2024）1,670人



基本施策 2. 福祉の充実

④地域の見守りシステムの構築（できる限り住み慣れた地域で暮らせるように）

地域の見守りシステムを構築し、できる限り住み慣れた自宅で暮らすことができるようにする

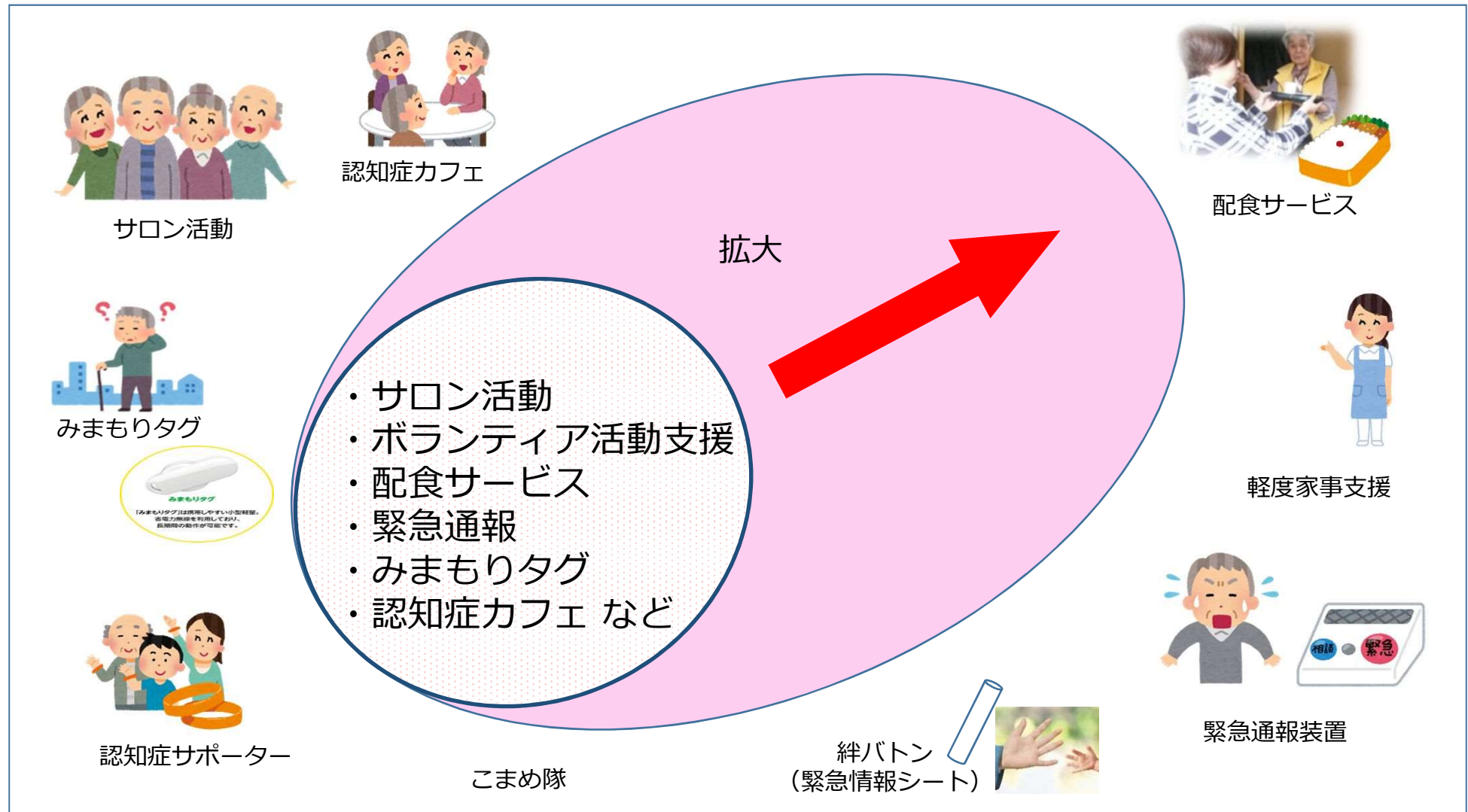
【重要業績評価指標 KPI】

介護予防サポーター

令和元年度（2019） 479人



令和6年度（2024） 604人



基本施策 3. 産業づくり ①地域資源を活かした小豆島ブランドの確立に向けて

課題

食生活の変化や担い手不足により、現在各産業を取り巻く環境は非常に厳しいものである。そこで、他地域にはないストーリーをつむぎ、豊富な地域資源を活用しながら、長期的で、大きな視野のブランディングを行っていくことが必要となっている。

【重要業績評価指標 KPI】
町民税納税義務者1人あたりの平均所得
平成30年（2018）2,439千円
↓（約10%の増）
令和6年（2024）2,700千円

課題解決の手段

ブランディングの専門家による一貫したマネジメントのもと、小豆島のブランディングを行う

地域の持つ価値が

正しく認識される

適切に発信される

目標

小豆島の地域産業・地域経済の活性化

これまでの取り組み



- ・小豆島町商工会が主体となり、食品産業界が一体となって「小豆島ブランド推進委員会」を設立【令和1年8月】
- ・第1回小豆島ブランディングセミナーを開催 講師：ルウツ株式会社 竹内哲也氏【令和1年8月】
- ・第2回小豆島ブランディングセミナーの開催 講師：株式会社博報堂 山口綱士氏【令和1年10月】
- ・株式会社AKINDIによる小豆島の主要産業視察【令和2年1月】
- ・株式会社AKINDIによる小豆島の事業者インタビュー【令和2年2月】



これからの取り組み

専門家による一貫したブランドマネジメント

フェーズ1: 関係者インタビュー・企業訪問などを実施し、小豆島の現状の把握、課題の抽出を行う。そして、フォーカスすべき小豆島の独自価値は何か、仮説を立てる。

フェーズ2: ブランドの核となるコンセプトを確定し、仮説をもとに長期的なブランディング戦略を策定する。

フェーズ3: ブランドのコンセプトを内外に示し、浸透を促すため、言語化・可視化を行う。

フェーズ4: ブランドのコンセプトを具体的に、イベント、プログラム等の形に落とし込み、島内外の様々な人に対し、コンセプトを体験してもらう。ブランドコミュニケーションを繰り返し行う。

島が一つとなった組織・体制づくりを推進する

【目指す将来像】



小豆島が持つ「知名度」、「観光資源」、「食文化」といった地域資産が連動し、相乗効果を産むことで小豆島の独自価値が確立する。

その価値が内外に浸透し、小豆島の「稼ぐ力」が高まることによって、地域産業・地域経済は活性化し、島民の所得向上につながっていく。



基本施策 3. 産業づくり ②外国人との共生社会に向けた取り組み

【重要業績評価指標 KPI】
小豆島町在住外国人数
令和元年度（2019） 156人
↓
令和6年度（2024） 250人

現状・方向性

小豆島町の在住外国人＝156人
(町人口の約1%)
⇒産業の担い手確保等に向け今後増加が予想される。

少子高齢化による人口減少が続く現状から、町が今後も持続的に産業・文化等を継承していくには、**外国人財の活用は必要不可欠**である。

行政、企業、地域、関連機関と連携した基盤の整備が急務であることから、ニーズ把握を含めた基礎調査から実施し、最終的に多文化共生に向けた**基本的な考え方及び施策の方向性**をまとめる。

取り組み①

町内の実態把握を目的とした基礎調査の実施

これまで、各企業の自助努力に任せていた外国人財の雇用や受け入れ状況の実態と課題、町に対する要望等の把握を目的とした基礎調査を実施。今後の取り組みの基礎資料とする。



- 基礎調査の実施・取りまとめ
- 関係機関等との連携体制の強化
- 地域おこし協力隊等の活用

取り組み②

町民と外国人が共に活躍できる環境整備

永住者、技能実習生を問わず、外国人財が能力を最大限発揮し活躍できる環境を整備する。
また、町民の一人として外国人財の地域行事への参加等を促進していく。



- 日本語学習支援等の実施
- 地域活動やボランティアへの参加促進
- 生活情報や防災情報等の提供
- 行政機関における多言語化対応の充実
- 各種イベントでの交流

取り組み③

企業・地域と連携した受け入れ体制や多文化共生に向けた意識の醸成

企業・地域と連携し、町民と外国人財双方が、多様性を尊重でき、共生できる意識を醸成する。



- 町民に対する多文化共生に向けた啓発PR
- 子どもたちの多文化学習
- 町民と外国人財との交流の場の提供
- 外国人財を活用したグローバル社会で活躍できる人材育成

事業実施のための体制づくり

① 総合的支援に向けた行政内の横断的連携

② かがわ外国人相談支援センター等との連携

③ 地域住民と外国人財との橋渡し役として地域おこし協力隊の活用

新たな宿泊施設の創造と集落再生に向けて、民間事業者が取り組む農泊事業

【重要業績評価指標 KPI】

民泊・農泊の登録件数
(第1期計画からの累計)
令和元年度(2019) 12カ所
↓
令和6年度(2024) 24カ所

堀越地区

- ・農山漁村の持つ豊かな自然や食などの地域資源の活用
- ・空き家再生による新商品開発や食のWSなどの地域交流拠点となるファクトリー整備
- ・富裕層をターゲットとした宿泊施設やレストランの整備
- ・ソフト・ハード事業を一体的に展開し、地域の魅力向上と集落再生を目指す



堀越地区で本格営業中の農泊事業

神浦地区

- ・古民家（空き家）や耕作放棄地など、地域に残る資源を再生して、カフェ、宿泊施設、体験農園などを整備
- ・農業体験、漁業体験と宿泊を組み合わせた新たな旅行商品を提供
- ・元気高齢者など地域の労働力を活用して限界集落を活性化
- ・瀬戸内国際芸術祭との連携などにより、国内外に地域の魅力を発信



皇子神社の麓で整備が進む農泊事業

基本施策 3. 産業づくり

④観光振興の取り組み ～2025大阪・関西万博を絶好のチャンスと捉えて～

観光地としての小豆島

海と山の美しい自然に恵まれ、オリーブ栽培発祥の地や日本三大渓谷美に数えられる名勝寒霞溪、古来より伝承されている農村歌舞伎、二十四の瞳映画村、伝統産業など、小豆島は数多くの魅力ある観光資源を有している。

新たな観光資源の発掘や磨き上げ、情報発信、受入環境の整備

【重要業績評価指標 KPI】

小豆島推定観光入込客数
令和元年（2019） 1,153千人
↓
令和6年（2024） 1,200千人

主要な旅行形態が団体ツアーから個人・少人数旅行に移行してきていることなど、求められるものが時々刻々と変化する中で、その時々で、より効果的な施策を実施しなければならない。

情報発信

町ホームページやSNS等による小豆島の魅力発信を行う。昨今のSNS普及に伴う情報拡散力をより効果的に活用することで国内外に広く発信していく。

他団体等との協働

島内観光関連事業者や団体、地元企業等と連携、協力を図り、観光物産PRや情報発信等を行う。また、商談会や見本市など小豆島のPRに繋がる取り組みを支援していく。

2025大阪・関西万博開催概要

開催期間	2025年4月13日(日)～10月13日(月) 184日間
開催場所	大阪 夢洲（ゆめしま）
想定来場者数	約2,800万人
経済波及効果（試算値）	約2兆円

テーマ **いのち輝く未来社会のデザイン**
“Designing Future Society for Our Lives”

サブテーマ
いのちを救う “Saving Lives”
いのちに力を与える “Empowering Lives”
いのちをつなぐ “Connecting Lives”

コンセプト **未来社会の実験場**
-People's Living Lab-

- 展示をみるだけでなく、世界80億人がアイデアを交換し、未来社会を「共創」（Co-create）。
- 万博開催前から、世界中の課題やソリューションを共有できるオンラインプラットフォームを立ち上げ。
- 人類共通の課題解決に向け、先端技術など世界の英知を集め、新たなアイデアを創造・発信する場。

島外へのPR出展

京阪神における観光物産イベント等に積極的に参加し、小豆島の観光資源や特産品など多くの方に触れてもらうことで、交流人口・関係人口の増加に繋げていく。

受入環境の整備

多言語案内の整備など外国人観光客を含む来島者の受入環境を整備し、観光満足度の向上、リピーターや小豆島ファンの更なる増加に繋げていく。

世界から注目される2025大阪・関西万博開催というチャンスを逃さず、
多方面からのアプローチにより『小豆島』を世界に！

①農業の担い手の育成と農地の利用集積・集約化の推進～ 人・農地プランの実質化～

【重要業績評価指標 KPI】
担い手の農地利用集積率
平成30年度（2018） 24.7%
↓
令和6年度（2024） 40%

実質化された人・農地プランの作成

① アンケートの実施

対象地区の相当部分について、おおむね5年から10年後の農地利用に関するアンケート調査を行う。

② 現況把握

対象地区において、アンケート調査や話し合いを通じて、農業者の年齢階層別の就農や後継者の確保の状況を地図により把握する。

③ 中心経営体への農地の集約化に関する将来方針の作成

対象地区を原則として集落ごとに細分化し、5年から10年後に農地利用を担う中心経営体に関する方針を決める。

担い手の確保・育成

各種補助事業の活用

- 青年就農者への支援
… 農業次世代人材投資事業
- 農地中間管理機構を通じた
担い手への農地集積の推進
… 香川県農地集積支援事業
- 荒廃農地の発生防止・再生利用の促進
… 荒廃農地等利活用促進事業

etc...

次世代を担う多様な担い手を中心に、農地の集積・集約が加速化

基本施策 4. 農業・漁業の振興 ②小豆島町漁業振興協議会を核とした漁業の振興

【重要業績評価指標KPI】

総水揚げ

令和元年（2019） 458百万円



令和 6 年（2024） 458百万円

漁業の活性化策について協議

小豆島町漁業振興協議会



協議会構成

- 小豆島町
- 内海漁業協同組合
- 池田漁業協同組合

アドバイザー

- 香川県
- 町内飲食店

- ・みんな魚を食べなくなったな
- ・魚が獲れなくなったな
- ・港も古くなったな
- ・後継者がいないな



改革

漁業の再生で、町に活力を！

魅力発信

- 魚食・食育普及活動の推進
- 地産地消の推進
- 各種イベントの開催
- 観光業との連携



地引網漁体験

生産強化

- 持続可能な漁業の確立
- 漁港の基盤整備・長寿命化対策
- 海域環境の保全
- 水産資源の回復と新たな創出



待たれる漁港整備

販売強化

- 加工品の開発・販売促進
- 高付加価値化
- 流通機能の強化
- 漁協機能の強化促進



商品の宣伝

担い手対策

- 担い手の確保・育成
- 青年・女性漁業者活動促進
- 技術・知識の向上
- 交流活動の促進



漁業者向け研修会

小豆島オリーブトッパワンプロジェクトのこれまでの取り組み

【重要業績評価指標 KPI】
小豆郡内5年間平均オリーブ収穫量
平成27年度～令和元年度 375 t /年
↓
令和2年度～令和6年度 410 t /年

研究開発

安定生産と高品質化の
ための研究・開発

- ◆炭疽病対策の徹底
- ◆新品種の研究開発

人材育成

担い手の育成と
6次産業化の推進

- ◆基本的栽培の徹底・
励行
- ◆新研究所でのオリーブ
オイル官能評価制度の
推進

高付加価値化

産地間競争を生き抜く
製品づくり

- ◆GAP・HACCP等
制度研修会を実施
- ◆海外品評会への出品
奨励
- ◆かがわオリーブオイル
品質表示制度の推進

イメージ戦略

ブランドイメージの向上

- ◆オリーブ植栽110周年
記念事業の展開
- ◆オリーブに親しむ機会
の創出
- ◆国内主要マラソン大会の
勝者に「オリーブ冠」の
贈呈拡充

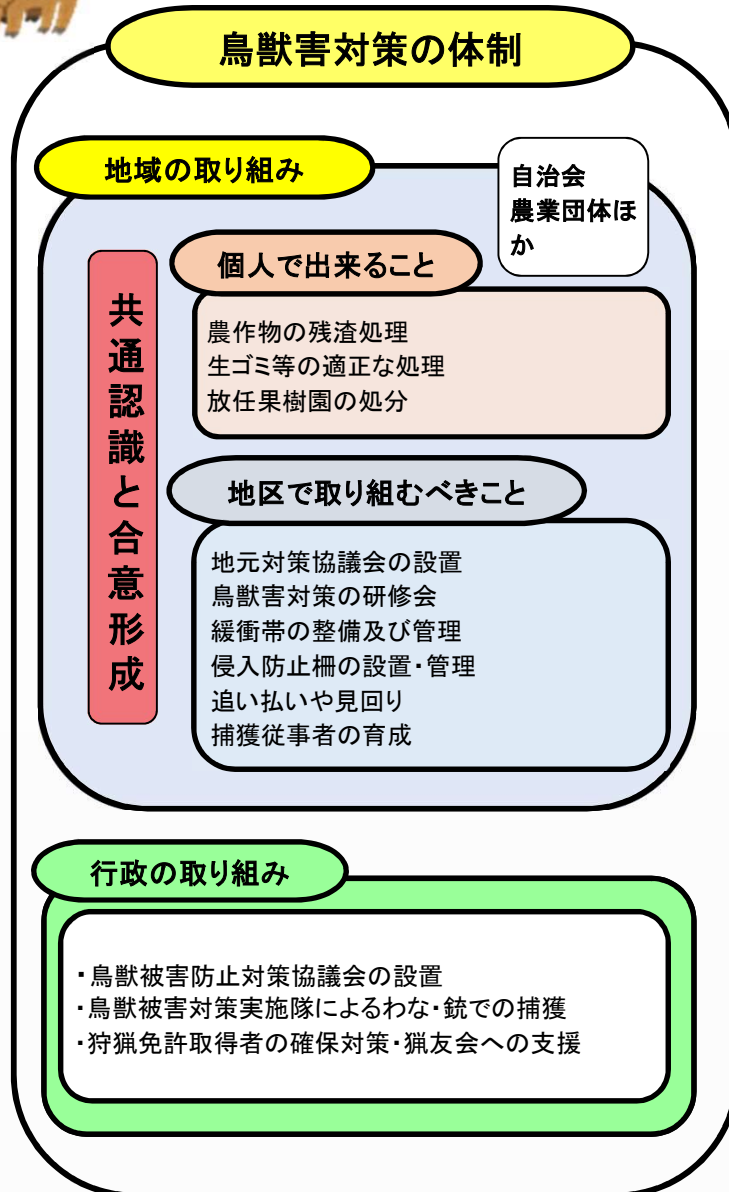
小豆島オリーブトッパワンプロジェクト 第Ⅳ期計画（R2～R4）

オリーブ発祥の地「小豆島」がトッパランナーであり続けるための「キーワード」

「産地の継承」

「人と財を育む」

「ブランド力の向上」



【重要業績評価指標 KPI】

有害捕獲実施者の増加

令和元年度（2019）	115名
↓	
令和6年度（2024）	140名

侵入防止柵、緩衝帯の整備

令和元年度（2019）	侵入防止柵25km	緩衝帯16km
↓		
令和6年度（2024）	侵入防止柵35km	緩衝帯24km

主な取り組み

● 捕 獲

- ・有害鳥獣捕獲奨励事業
- ・狩猟免許申請手数料助成事業
- ・狩猟免許保持経費助成事業
- ・鳥獣被害防止対策協議会事業
- ・猟友会の活動支援
- ・狩猟講習会の開催

● 防 護

- ・農地被害防止柵の資材購入助成
- ・市街地被害防止柵の資材購入助成

● 環 境

- ・緩衝帯整備に対する助成
- ・イノシシ等被害復旧支援事業

【重要業績評価指標 KPI】

危機管理プログラム受講者数
令和元年度（2019） 0人

↓
令和6年度（2024） 50人

【重要業績評価指標 KPI】

補助制度を活用した防災士資格取得者数
令和元年度（2019） 0人

↓
令和6年度（2024） 15人

1. 目 標

「小豆島町国土強靱化地域計画」を策定し、近年多発する局地化、集中化、激甚化する気象災害(豪雨災害)や今後懸念される南海トラフ地震への備えとして、ハード面、ソフト面の取組を効果的に組み合わせ、バランスのある防災・減災対策を推進する。

2. 主な施策

◎ 町の防災体制の充実・強化

- 【H29】小豆島町業務継続計画（BCP）を策定
- 【H30】小豆島町地域防災計画を全面改訂
- 【R1】香川大学と連携した地震学講座Ⅱを実施
- 【R1】小豆島町国土強靱化地域計画を策定
- 【R2～】危機管理室の設置、防災研修や香川大学と連携した危機管理プログラムを実施
- 【R2～】受援計画などのマニュアル作成の推進

◎ 家庭・地域の防災力向上

- 【継続】地域防災訓練支援事業
- 【H28～】耐震診断・耐震改修促進事業
- 【R1～】危険ブロック塀等撤去支援事業
- 【R1～】家具類転倒防止対策促進事業
- 【R1～】自治会集会所整備支援事業
- 【R1～】防災士育成支援事業
- 【R2～】地区防災計画等の作成促進

◎ 避難施設の整備・避難体制の強化

- 【H24～H28】馬木地区津波避難場所・避難路の整備
- 【H30～】避難場所標識・避難誘導標識の設置
- 【R1】西館2階福祉避難所備品等購入
- 【R2】イマージュセンター2階多目的ホールの吊り天井耐震化・福祉会館倉庫改修
- 【R2】土砂災害・津波ハザードマップ更新
- 【R2】備蓄物資の拡充・公民館への分散配置
- 【R2～】西館2階福祉避難所設置運営訓練

自助・共助・公助
の連携

◎ 消防団の救助能力向上

- 【継続】消防団員の確保・加入促進
- 【継続】消火栓、防火水槽等水利の整備・更新
- 【R1～】AEDの公共施設への配備
- 【R2】池田分団消防ポンプ自動車の更新
- 【R2】西村分団小型動力ポンプの更新
- 【R2～】拠点となる消防団屯所の建替え等
- 【R2～】女性消防団、機能別分団、大規模災害団員などの導入検討

安全・安心な地域づくりと国土強靱化・地方創生に貢献

1. 取組みの背景

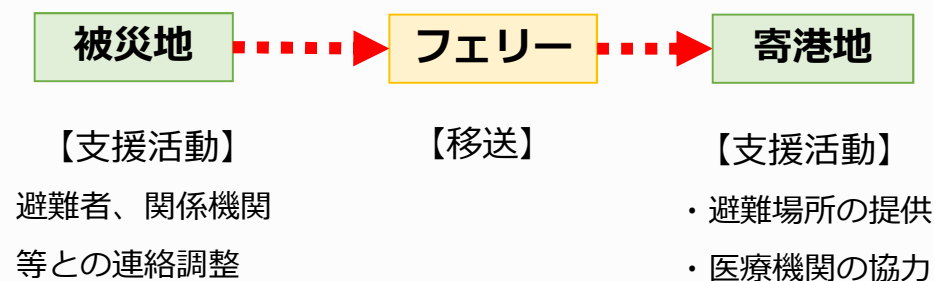
阪神淡路大震災以降、日本各地で発生した地震災害により、災害関連死が多発したことを踏まえ、井上欣三神戸大学名誉教授らを中心とする災害時支援船活用委員会が、災害関連死予防の観点から、民間フェリーをチャーターして避難所船とする構想を提唱

船の確保、医療支援、費用の課題等を、長年にわたり検討

時代とともに、車中泊避難者が増加するなど、被災者の行動パターンが変化。
また、民間フェリーの長期チャーターが困難な状況が生まれ、**新たな視点での取組みが必要**となってきた。

2. 新たな視点での取組み

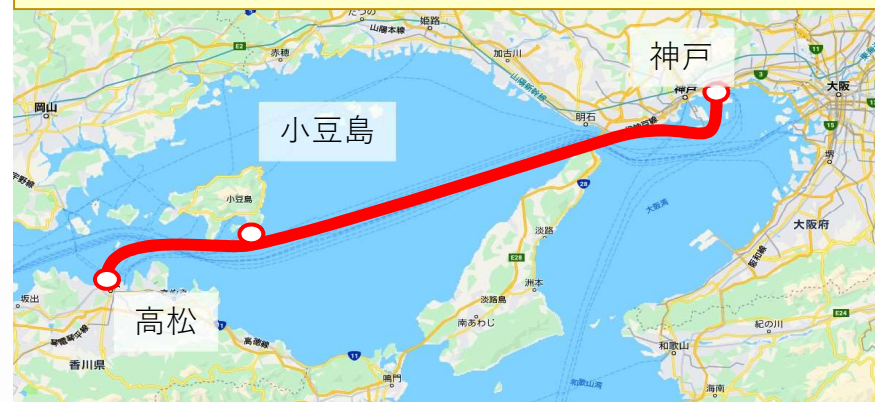
大規模災害において、車中泊避難者、医療・介護・看護の必要な避難者、在宅医療患者等の避難者を定期フェリーで寄港地に移送し、そこで必要な支援等を行うことで災害関連死を防ぐ。



【重要業績評価指標 KPI】
寄港地との防災協定数
令和元年度（2019） 0件
↓
令和6年度（2024） 2件

3. 実証訓練

神戸～小豆島～高松フェリーでの実証訓練の実施



- ◆ 実施日 令和2年1月12日(日)
神戸から約100名が参加して実施
- ◆ 訓練内容
 - ・ 患者団体の参加の下、神戸⇒小豆島をフェリー移動
 - ・ 船上で、船内施設などの検証
 - ・ 連携協定について意見交換
 - ・ 小豆島で、避難者の受入れ施設（小豆島ふるさと村等）、医療機関（小豆島中央病院等）を視察
 - ・ 国などの関係機関の参加者からの助言

4. 連携協定の締結 による防災対策の充実へ！

- ◆ 実証訓練の結果を踏まえ、他の地域のモデルとなるような地域間協定の締結について寄港地3自治体及び航路事業者で合意済み。
- ◆ 令和2年度前半の協定締結に向けて、具体的な内容を事務レベル協議で調整中。

基本政策

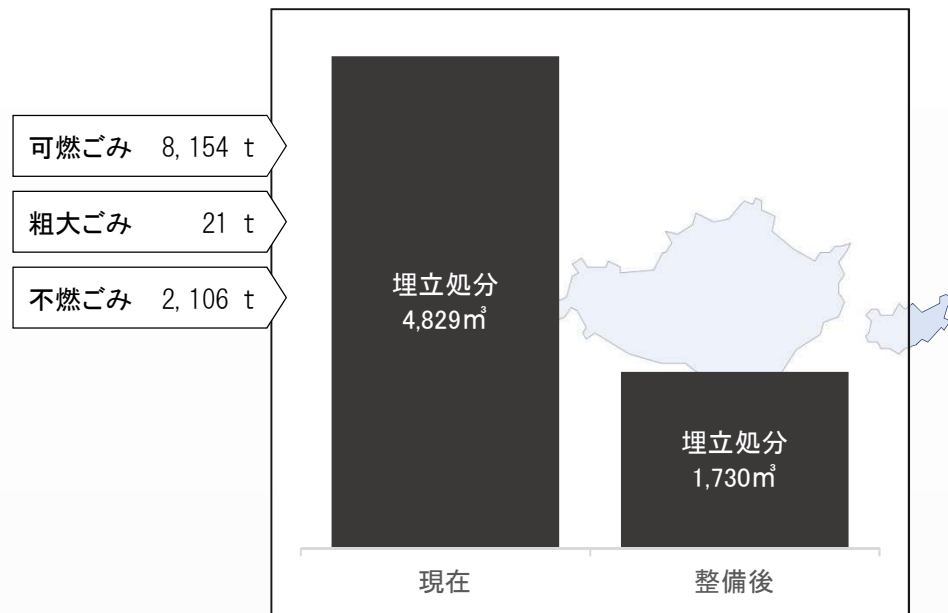
- ❖ 中間処理施設を新たに整備し、ゴミの減量化等を推進することにより持続可能な地域社会の実現を目指す

具体的な施策の内容

中間（破碎選別）処理施設の広域的整備及び合理的な運営方法の導入

【重要業績評価指標 KPI】
中間（破碎選別）処理施設の整備
令和元年度（2019） 0件
↓
令和6年度（2024）運用開始

施設整備によるごみ減量化

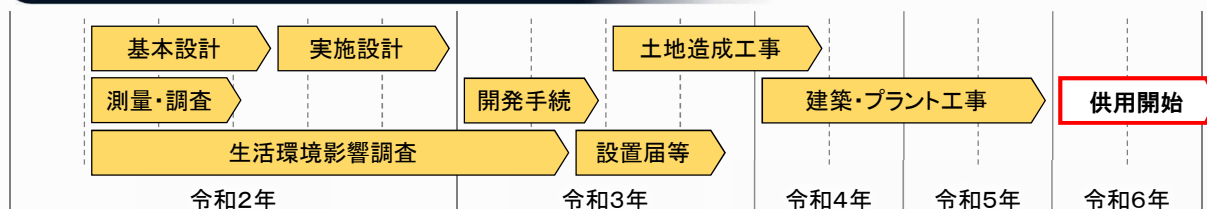


事業計画及びその効果



※重量の体積換算は処理前不燃ごみ等 0.55t/m³、破碎後不燃ごみ等 1.65t/m³、焼却残渣1.34t/m³として算出した。

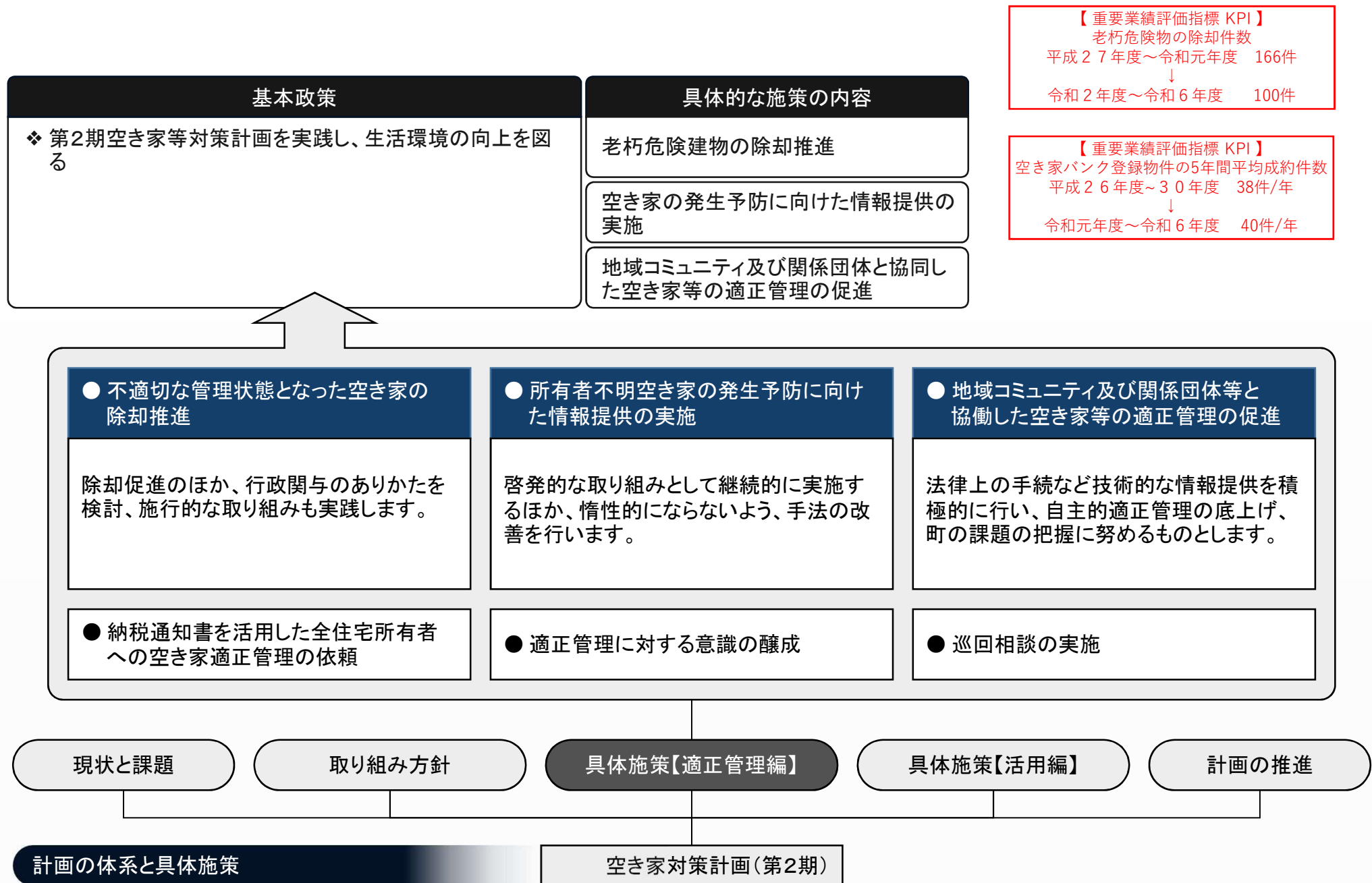
考えられる整備スケジュール



新たなごみ処理体系への移行

大幅な不燃ごみの減容化による最終処分場の延命

持続可能な地域社会の実現



基本施策 6. つながり・交流 ①地域おこし協力隊の活用

制度概要

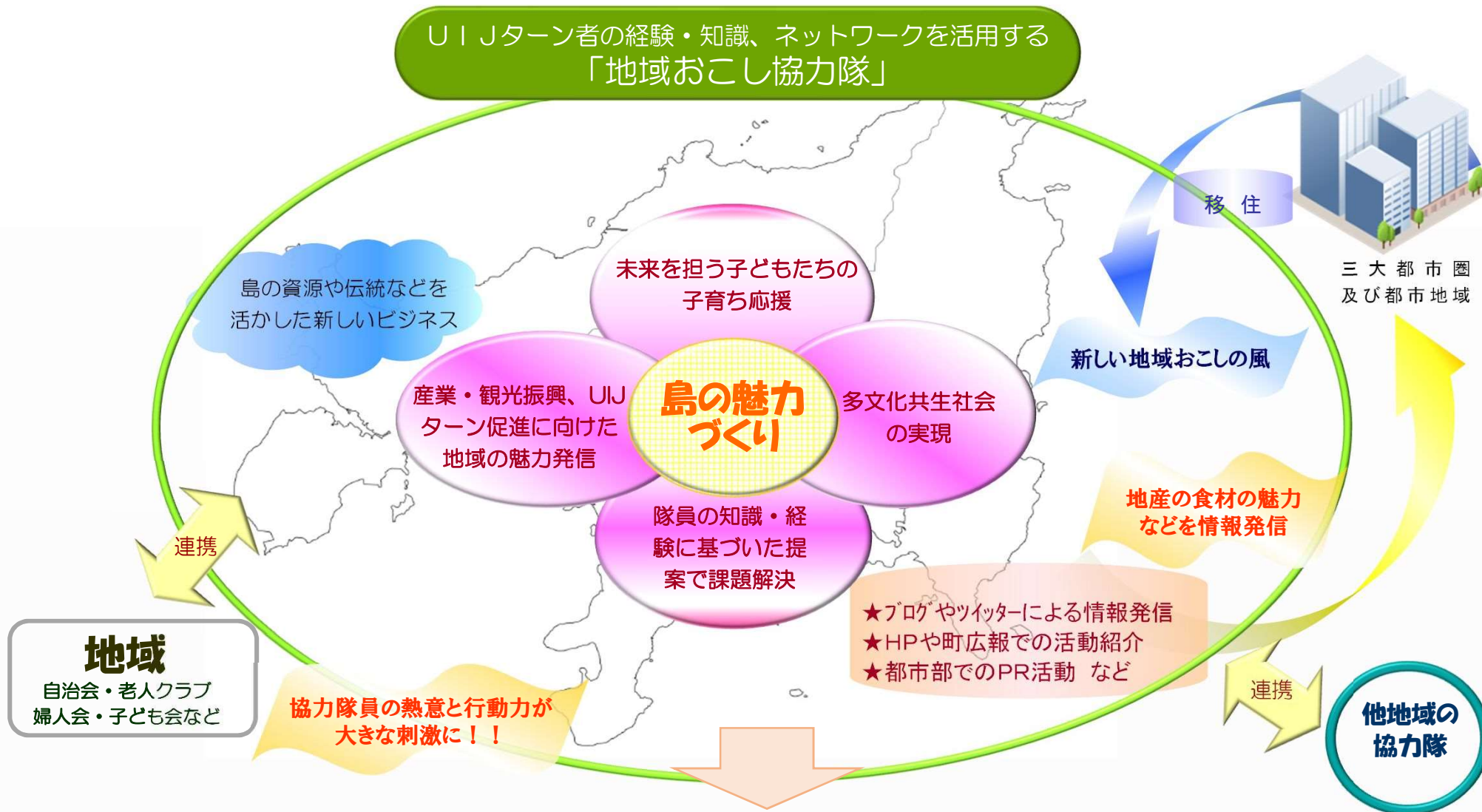
都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を移動し、生活の拠点を移した者を、地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱。隊員は、一定期間、地域に居住して、地域協力活動を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組/協力隊員の報酬・活動経費は特別交付税を活用

【重要業績評価指標 KPI】

協力隊員数

令和元年度（2019） 0人

令和 6 年度 (2024) 12 人



地域おこし協力隊員の知恵とパワー、情熱で、文化・伝統・産業など島の魅力づくりを推進！

定住人口と関係人口のイメージ

【重要業績評価指標 KPI】
移住者数と5年後定住率
平成30年度 145人・50.4%
↓
令和6年度 140人・60%

何度も訪れる人

島外で魅力を
発信する人

二地域居住の人

副業・兼業等で
島に関わる人

調査研究する人



基本施策 6. つながり・交流 ②関係人口の増加に向けた取組み ー 大学・企業等との包括連携協定を活かして ー

【 お互いの強みや資源を有効活用し、新しい関係の構築によって島の課題を解決 】

【 重要業績評価指標 KPI 】

包括連携協定数
令和元年度（2019） 7団体
↓
令和6年度（2024） 12団体

包括連携協定の現状



関係人口の増加に向けて、大学・企業等とのさらなる包括連携協定の拡大

【 連携を目指す施策の例 】

□ 医療、福祉、子育て、教育の人財確保

□ 農業、漁業、地場産業等の活性化

□ 国土強靱化・防災対策

□ 歴史、文化、伝統、環境等の調査研究

□ 先端技術（自動運転、AI、5G等）の研究

□ 交通環境の充実

□ 瀬戸内国際芸術祭等のアート活動

□ UJターンの促進

□ 島の人財育成、交流の推進

etc



クラブオリーブの活用



副業・兼業での関わり



ふるさと納税



農山漁村の体験活動



リカレント教育の検討

日本・世界の人と新しい関係を構築し、人が集い元気なまちを実現

－ アートの拠点に加えて、様々な国際交流・人財育成の場としての拠点へ －

【重要業績評価指標 KPI】
定住外国人のイベント等の参加者数
令和元年度（2019） 0人
↓
令和6年度（2024） 50人

福武ハウス
アジア・アート・プラットフォーム

アジアの多様な民族的背景をもつヒト・モノ・コトをつなぎ、
アートを中心に協働する拠点として、2013年にスタート

【福武財団・福田地区自治連合会・小豆島町】



校舎でのアート展示



福田アジア食堂



様々なイベント

+ これからは、様々な国際交流と人財育成の拠点へ

- ❖ 福武ハウスを瀬戸芸開催年にとどまらず、毎年の開館へ
- ❖ パートナー組織の拡大→中国、ベトナム、フィリピン等
- ❖ 外国人観光客に加えて、外国人定住者も楽しく参加できるイベントの開催（アジア各国の芸能、音楽、特産品 etc）
- ❖ 外国人との交流を通じた視野拡大など地域の人財育成（海外の歴史、伝統文化、経済活動、教育等を学ぶ機会へ）
- ❖ アジア各国の食文化をテーマとしたワークショップの開催（各国の食を協働で創る料理教室、食を通じた日本語教室）

基本施策 6. つながり・交流 ④通院、通学、物流、観光等を支える基盤整備

【重要業績評価指標 KPI】
小豆島観光客数
令和元年（2019） 1,153千人
↓
令和6年（2024） 1,200千人

～ 道 路 ～

拡幅等の改良事業や、老朽化した道路舗装の修繕工事を実施し、島内外の利用者が安全に、快適に通行できる環境を目指す。

主な事業

宮浦線道路改良事業
新池線道路改良事業
町内全域の舗装修繕

つながり・交流の ための基盤整備



～ 橋 梁 ～

町内の275橋の橋梁について、「小豆島町橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、計画的に、長寿命化対策を実施し、道路の安全性を確保する。

主な事業

馬木川1号橋
…
…

～ 港 湾 ～

地方創生港整備推進交付金事業を中心として、港湾施設の改良や老朽化対策を実施することにより、港湾機能を維持し、定期航路の確保、プレジャーボートの利用促進、クルーズ船の誘致効果を高める。

主な事業

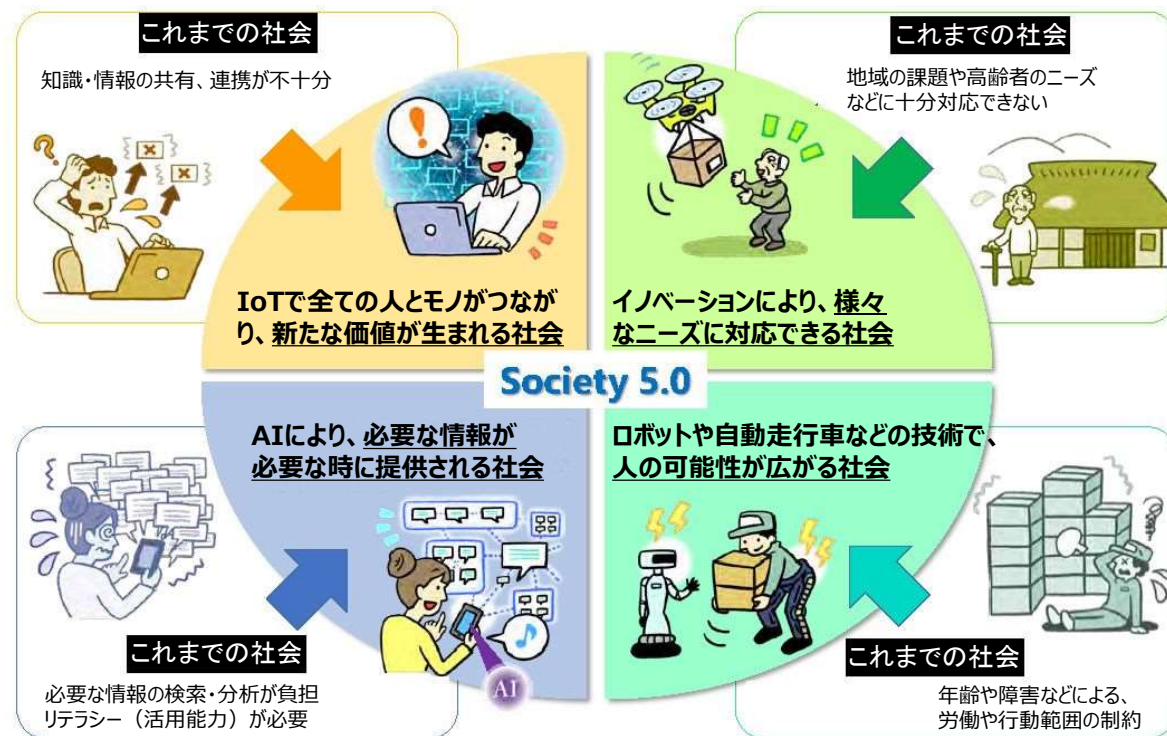
坂手港浮棧橋
芦浦岸壁
草壁岸壁
草壁浮棧橋

通院・通学・物流の利便性の向上・観光の活性化



基本施策 6. つながり・交流 ⑤Society5.0の実現に向けた研究の推進

Society5.0の実現に向け、香川県や香川大学と連携し、先端技術（自動運転、AI、5G等）の研究を推進する。



内閣府作成資料

取り組み

- ❖ 瀬戸内洋上都市ビジョン協議会による陸・海・空を繋げた観光型MaaSの実証実験（小豆島町：オブザーバー）
- ❖ 香川大学・群馬大学・明治大学による自動運転実証実験を小豆島オリーブ公園で実施（2019年3月）
- ❖ 瀬戸・高松連携中枢都市圏として、スマートシティ高松の取組に参加

関係機関・団体と連携して、更なる研究を推進

先端技術を活用して、産業の活性化や公共交通の充実など、地域課題の解決を図る！！

小豆島町すくすく子育て応援アクションプラン

～第2期～ Ver.1



子育て共育課

小豆島には、豊かな自然や先人が培ってきた伝統、文化、産業、人と人の絆などたくさんの宝物があります。しかし、それらたくさんの宝物の継承が難しくなりつつあります。同時に、未来を担う子どもたちの健やかに育つ環境が失われ、夢や誇りを持つことが難しくなるうとしています。

このアクションプランは、小豆島の宝物を守るとともに未来を担う子どもたちが健やかに育つことを目的とし、平成27年3月に策定しました。併せて、「子ども・子育て支援法」に基づく、子ども・子育て支援事業計画も兼ねています。

アクションプラン第2期は、令和2年度から6年度までの5か年計画です。計画の検証と見直しを毎年行い、計画期間終了時にも、計画全般の検証を行い、新たな計画をつくることとします。

※このアクションプランでは、親が子を育てる“子育て”とともに、子どもが自らの力で育つことを含めて、“子育て”を使っています。

小豆島町の子育て応援のデザイン

魅力ある町の発信

- ・ 小豆島の自然・伝統・文化・産業の継承
- ・ 小豆島の魅力を発信

地域による子育て応援

- ・ 地域にある資源の活用
【地域住民による子育て応援】 【出会いの輪を創出】
- ・ 世代間の交流を促進

子育てしやすい環境づくり

- ・ U・I・Jターンの促進 【産業支援】 【移住定住の促進】
- ・ 地場産業の強化
- ・ 子育ての環境整備 【健診の充実】 【多様な働き方を応援】

小豆島町すくすく子育て応援アクションプランの構成

構成

1. 小豆島町のこれからの子育て応援のデザイン
2. 子ども・子育て支援法第61条第1項に基づく市町村子ども・子育て支援事業計画

基本施策 7. 子育て・人づくり ①小豆島町すくすく子育て応援アクションプラン～第2期～

1. 魅力ある町の発信 小豆島の魅力を発信【島内外の情報発信を強化】

【重要業績評価指標 KPI】
ホームページ子育て応援サイト
情報更新回数
令和元年度（2019）月1回
↓
令和6年度（2024）月3回

「子どもを産み育てたくなる島」からの情報発信

1

発信の量を増やす

子育ては人それぞれ。多くの情報を発信し、必要な情報を選ぶように。

これまで

ホーム
ページ

広報誌

これから

Face
Book
などの
SNS

● 即時性
● 双方向性

子育て応援
サイト
子育てガイド
ブック

● 専門性

2

情報を共有する

お知らせだけの発信ではなく、「子育て情報」を相互に共有する。

新しい情報発信ツールを増やすとともに、全ての情報を集約できるホームページを見直し、情報発信の中心として、人と情報をつなげる

● 出会い ● 結婚 ● 妊娠 ● 出産 ● 子育て

小豆島町で
こどもを
産み、
育てたい！

情報の拡散



● 小豆島に住んでいる人
● 小豆島に来る、
来たい人

● 家族
● 地域
● 企業
● 教育現場
● 医療現場
● 高齢者

● 子育て施策への意見 ● 地域・民間の取組情報

確実な情報発信で「安心して子どもを産み育てることのできる島」へ！

2. 地域による子育て応援 地域にある資源の活用【その他の子育て応援】

小豆っこ誕生プロジェクト事業

小豆島町が、子どもの誕生に感謝し、未来を応援したいという思いから立ち上がったプロジェクトです。



平成27年度以降の出生児の出生届の際に役場窓口で、贈りもの（木箱とカード）を贈呈します。木箱の中に入れるカードは小豆島に縁のあるアーティスト・クリエイター・団体と制作していきます。

贈り物の中身



「木箱」

母子手帳や、へその緒、お子さまの成長過程で生まれる思い出を詰めれるようつくっています。

伝えたい思い



1. 小豆島に生まれてきてくれてありがとう

町から、生まれてきた子どもとご家族に対する感謝の気持ちをお届けします

2. 小豆島町は生まれてきた子どもたちの未来を応援しています！

生まれてきた子どもにとって生涯の記念となる贈りものになりますように

3. 小豆島が子どもたちにとって誇るべき、魅力いっぱいのふるさとであり続けますように…

贈りものの制作に島内外のアーティストやクリエイターが関わることにより、島の魅力を発信します！

4. 子どもたちの笑顔が地域の人々の生きる活力となりますように…

5. これから子育てをする方、島外の方にも小豆島で子育てがしたいと思ってもらえますように…

これから子育てをする方、地域のお年寄り、さらには島外の人たちにも子育ての輪が広がっていきますように

「カード」

お子さまの成長と一緒に使えるカードを、協同してつくります。



※カードはイメージです。

「説明書・袋」

プロジェクトの説明や、贈り物の使い方を書いた説明書が同封されます。



3. 子育てしやすい環境づくり 子育ての環境整備【保育・教育環境の整備】

【重要業績評価指標 KPI】
就学前児童の
“約束を守って利用している”
割合
令和元年度（2019）39%
↓
令和6年度（2024）60%



スマートフォン・インターネットを通じたゲーム依存に対する啓発

乳幼児期のスマホ等との付き合い方

保護者自身の意識を見直す

●時間があればスマホ等を使用

- ・時間があればスマホを使用しているところを子どもは見ている。
- ・利用の仕方や暗証番号を覚えて自分で操作
⇒アンケート調査では、就学前児が課金している事例も。

●スマホ等で子守り

- ・家事の間や、静かにさせるためにスマホ等を利用
⇒スマホ等をせがみ我慢ができなくなる。
子ども、保護者ともに依存してしまう可能性がある。



見てほしい

顔を見て、手を少しだけ止めて話を聴いてあげる。



認めてほしい

具体的に言葉にして褒める。結果だけではなく、過程を認めてあげる。

適切な
利用方法



親子でノーメディアデーを実施

（テレビ・ラジオ含む）

- ・小学校で実施しているノーメディアデーを月1回程度、親子で取り組んでもらう。幼稚園・保育所等で実施し、保護者のスマホ等に対する意識を高める。
- ・年に1回スマホ等のアンケートを取り、保護者の意識調査を兼ねる。



スマホ等の長時間利用による子どもの健康や成長への影響



●視力の低下・斜視

- ・画面に目を近づけて凝視することで目のバランスが崩れ、急性内斜視や視力低下の原因に。
- ・急速に視力が発達する3歳までの乳幼児期は特に注意。

●睡眠障害

- ・スマホ等の画面を見続けると、覚醒ホルモンが分泌され、夜に長時間使用すると深い眠りを妨げる可能性がある。
- ・睡眠不足により生活リズムを崩さないよう就寝前の使用は注意。

子どものお手本は保護者



・時間の管理

幼児期の子どもにスマホ等を使用させるときは、短い時間でどう使うか決めておく。

・約束は保護者も守る

保護者が使用していれば、子どもも使用したくなる。保護者から意識を高めることが大切。

・スマホ以外で一緒に楽しむ

スマホ等から気をそらす。
例えば、体を動かしたり、絵本や折り紙等で一緒に楽しむことでスマホ以外のことに興味を持たせる。

基本施策 7. 子育て・人づくり ②③④幼・保、小、中、高の一貫教育の推進

教育目標

【ふるさとを愛し、人間性豊かで、たくましく未来に生きる人づくり】

【重要業績評価指標 KPI】
奨学金利用者のUターン者数
令和元年度（2019）10人/5年平均
↓
令和6年度（2024）12人/年

幼稚園・保育所
認定こども園

小学校

中学校

高校

小豆島町総合教育会議（R1：教育大綱の見直し R2：子どもたちにとって望ましい教育のあり方の検討）

発達段階に応じた教育

健やかな子育てのための基礎づくり
就学に備えた生活習慣の形成

地域を愛する心の育成
学びの基礎づくり

切磋琢磨し、勉強やスポーツ
など、一人ひとりの能力の向上

希望大学等への進学
将来の夢に向かってチャレンジ

一貫教育 の推進

小豆島教育会議【R1～英語教育 R2：ネット・ゲーム依存予防対策（サミットの開催）】

- 教職員の資質・指導力向上及び働き方改革の取組
- コミュニケーション教育の拡充
- ふるさと教育の推進

学力向上

- 特別支援教育の充実（支援員等の配置、R5：小豆地区特別支援学校の開校）
- 英語教育の充実
- 生徒指導の充実【R2～指導主事の配置（新規）】



- 分かる授業の実践
- ICT教育の充実【R2：プログラミング教育、地域おこし協力隊の配置（新規） R2～ギガスクール構想の推進】
- 道徳教育の充実

運動能力 向上

- 体力・競技力向上プログラム
- 運動能力向上講習会
- 教職員の指導力向上

- 基礎体力の向上



- 競技力の向上（競技力向上補助金、部活動指導員の配置）



【重要業績評価指標 KPI】
公民館利用者数
平成30年度(2018) 82千人
↓
令和6年度(2024) 90千人

地域住民同士が学びあい、教えあう相互学習等を通じて、
人々の教養の向上、健康の増進等を図り、人と人の絆を強くする。

学びの場づくり

～楽しさと課題に応える学習機会を作る～

- ◆ 個人の楽しさや要望を叶えることと合わせて、地域課題（子育て、地域の連携、少子高齢化、防災問題等）にも、公民館を核として積極的に取り組む。

ひとづくり

～地域づくりの担い手を育成～

- ◆ 地域の担い手づくりの観点から、子ども・若者の学びの場への参画を促し、地域との関わりの動機付けとなりうる事業を推進する。

つながりづくり

～仲間づくりと様々な連携を意識した学びの促進～

- ◆ 住民の交流が豊かになるよう、各地区公民館や各種団体（自治会、子ども会、婦人会、老人会等）が様々な連携・協働を進め、発展的な事業を推進する。



地域住民の自立に向けた意識(自助)を高め、
協働による地域づくりの実践(互助・共助)に結び付けていく。

基本施策 8 文化・アート総合戦略 ①瀬戸内国際芸術祭の取組み

概要

2010年に始まり、3年に1度のトリエンナーレ方式で開催される日本を代表するアートフェスティバル。

『海の復権』をテーマに、近代化の中で、ともすれば忘れられてきた島を舞台に、現代美術の力を借りて、島のお年寄りの笑顔を願い、瀬戸内海が地球上の全ての地域の『希望の海』となることを目指した、壮大な地域再生の取組み。

主催：瀬戸内国際芸術祭実行委員会（会長 香川県知事 浜田恵造）

コンセプト「あるものを活かし新しい価値を生み出す」

現代アートや建築を手がかりに地域の再生を目指す試み

効果

- ❖ 地域住民による作品制作協力やお接待や作品受付によりアーティストや来場者との交流、島の伝統・文化を感じ取り、その島でしか生み出すことのできない作品等に触れることで、当たり前と感じていた伝統・文化・風景を改めて見つめ直す機会となり、**地域が自信をとりもどすきっかけ**となっている。
- ❖ 小豆島のイメージアップに繋がり、**交流人口・関係人口・UJターン者の拡大**に繋がっている。
- ❖ **観光客数が順調に推移**している。

これからの取組み

- ❖ ART SETOUCHI（芸術祭の合間の年）で既存作品を活かし、継続した取組みを行う
- ❖ 瀬戸内国際芸術祭2022の開催に向けた準備

これまでの小豆島の展開

【重要業績評価指標 KPI】

小豆島観光客数
令和元年（2019） 1,153千人
↓
令和6年（2024） 1,200千人



お接待

観光案内

作品制作のお手伝い

アートを通して小豆島の魅力を磨き、地域との協働による元気づくり・絆づくりの再生を！！

基本施策 8. 文化・アート総合戦略 ②地域の文化・伝統を守り、活用し、継承していく仕組みをつくる ～文化財保存活用地域計画の策定～



太鼓台奉納等の祭礼・行事
(亀山八幡宮例大祭)



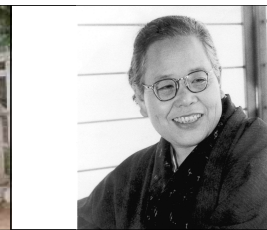
希少なジオサイトと石の文化
(皇子神社のマントル直結安山岩)



木桶醤油醸造技術と「醬の郷」の景観



中山の景観と農村歌舞伎
佐々木信胤の伝承
(湯船山蓮華寺)



壺井栄ら近代文学者の輩出
(壺井栄)



弘法大師伝承と霊場の巡礼文化
(基石山)

【重要業績評価指数 KPI】
国、県、町の指定文化財数
令和元年度 91件
↓
令和6年度 100件

小豆島には、これら以外にも様々な歴史、伝統、文化、自然、景観等（文化資源）が凝縮されている…が、

「地域の魅力」（文化遺産）があやふや。
【明確な地域の魅力がわからない】

理解しづらく、活用しきれない。
【活用されず、見向きもされない】

社会の変化で地域の担い手がいらない。
【後継者不足】

「地域の魅力」（文化遺産＝地域の文化資源）が知らない間にどんどん消滅

この状況を改善するため「文化財保存活用地域計画」策定（令和3年度）

①文化遺産の把握

どんな「地域の魅力」（文化遺産）があるかについて、地域の方と一緒に考える。

地域ごとに誇る魅力と特色を見出し、他地域に向かって誇りを持てる魅力を見つけ出す！

②保存・活用の方針の策定

地域や観光・商業等の方たちと一緒に、保存・活用の方法を考え、確実に後世へと伝える。

地域の方々と一緒に、それらを守り伝えていただける施策を行う！

文化遺産の確実な保存継承と活用

地域への「愛着」と「誇り」を持てるように

「文化遺産を大切にしまちづくり」へ

策定した「地域計画」に基づき、国の様々な制度等を活用し、各地域・分野で施策を実施

知ってる！？ 悠久の時間が流れる石の島
～海を越え、日本の礎を築いた せとうち備讃諸島～

【重要業績評価指標 KPI】

小豆島観光客数
令和元年（2019） 1,153千人
↓
令和6年（2024） 1,200千人

① 石の文化の魅力発信

□日本遺産ブランドを活用し、2市2町が一体となって、せとうち備讃諸島の「石の文化」の魅力を日本と世界に向けて発信していく。

② 交流人口の拡大と産業の活性化

□観光客等の交流人口を拡大し、産業の活性化を目指すとともに、瀬戸内海・小豆島の認知度の向上を図り、移住定住や関係人口の増加に繋げていく。

せとうち備讃諸島
日本遺産推進協会

③ 普及啓発活動の推進

□石の歴史や魅力（ストーリー）を学び、未来に繋げていくため、ふるさと学習やシンポジウム等を開催するとともに、語り手となる日本遺産ガイドを養成していく。

④ 文化の力を活かした地域づくり

□日本遺産の魅力を高めるさまざまな活動をみんなで進めることによって、地域の文化への自信と誇りを育み、人が集う元気な地域を創っていく。

海でつながり、瀬戸内海の要衝として発展してきた備讃諸島を元気に！

④演劇やアートを通じたコミュニケーション教育の推進～文化と教育の先端自治体連合～

文化と教育の 先端自治体連合

令和元年11月11日 発足

【重要業績評価指標 KPI】

小中学校コミュニケーション教育
令和元年度（2019） 全小中学校 年1回
↓
令和6年度（2024） 全小中学校 年2回

小さな世界都市－Local & Global City－

豊岡市（兵庫県）

- ・人口 82,250人（H27国調）
- ・コウノトリとの共生（無農薬、減農薬農業）
- ・城崎温泉を中心とする国際観光の推進
- ・出石永楽館（近畿最古の芝居小屋）
- ・城崎国際アートセンター（舞台芸術のレジデンス）
- ・国際観光芸術専門職大学（2020.4開校予定）

子育て応援宣言のまち

奈義町（岡山県）

- ・人口 5,906人（H27国調）
- ・合計特殊出生率 2.81（H26）
※H17の1.41から9年間で2倍
- ・町立現代美術館「Nagi MOCA」
- ・化石博物館「なぎビカリアミュージアム」



◆今後の取組み◆

- ①令和2年度以降、非認知スキルの向上を目指したコミュニケーション教育に取組み、その効果検証などを共同実施
- ②若手の職員研修などによる発見や交流を通して、5自治体のまちづくりについて相互理解を深めるとともに、人材育成を着実に進める
- ③第2回大会（令和2年度）は、小豆島町で開催する

写真のまち

東川町（北海道）

- ・人口 8,111人（H27国調）
※H7国調の7,211人から増加
- ・写真甲子園（H6～全国高等学校写真選手権）
- ・国際写真フェスティバル
- ・日本で唯一の町立日本語学校
- ・文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）

小さな世界文化都市

南砺市（富山県）

- ・人口 51,327人（H27国調）
- ・国内9自治体、海外7自治体と姉妹都市
- ・世界遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」
- ・シアター・リリックス2019（舞台芸術の国際祭典）
- ・いなみ国際木彫刻キャンプ（4年ごと）

小豆島町（香川県）

- ・人口 14,862人（H27国調）
- ・多様な産業、多様な文化が残る島
- ・日本のオリーブ発祥の地
- ・瀬戸内国際芸術祭の主要会場
- ・日本遺産「せとうち備讃諸島の石の物語」